



「副島先生講演会&小冊子作成事業」を終えて

しながわチャイルドライン事務局長 徳江安子

今回の取り組みは、12期生の大いなる協力を得て、多くのメンバーの参加で、新鮮な発案・実施が生まれました。そのなかで、いろいろな特技を持っているメンバーの、新たなパワーを感じ、今後の楽しい予感に繋がりました。

◎小冊子は毎回、数年しか使えない報告書だったものが広い視点で、チャイルドラインを理解してもらえる素敵な冊子となり、作成に当たり、何人もの方の協力で作成出来たことは、今までになかったことでした。いろいろな、経験を持った人が中心になり、原稿集めから、レイアウト、座談会での聞き取り等、新たな発想で力を発揮してもらい小気味よい展開で形になっていくのを、感動しながら見ることが出来ました。

◎副島先生講演会は、聴講者から「いつもありがとう。今日の講演会も良かったですね。次回も楽しみにしています。」と、感謝の言葉をいただきました。先生の活動拠点の昭和医大「さいかち学級」見学から始まり、事務局会議等を経ての実行委員会開催と、入念な足場固めの結果、上記のような感想を頂けたのだと思います。いろいろな考え方のメンバーがいるということは、多様な可能性があることを実感し、意見の衝突も、よりよいものにしてもらうメンバーの心意気なのだ、うれしく思いました。

◎当日は皆さんが役割を担っていただき大変スムーズな進行でした。
・福島さんの司会は、落ち着いて「素晴らしかったなあ！」
・また、実際の活動の状況を寸劇にしたのもとても分かりやすくアピールできました。
・OBの松本君も、当日の舞台・放送設備など引き受けてくれて、舞台設定など心配なく安心でした。
・また、当日の社会福祉協議会の木下徹事務局長の挨拶には感激いたしました。
冷静に外から「しながわチャイルドライン」を見続けて下さっている方の言葉だと本当に嬉しかったです。
・私たちの活動を心から支えてくれている本道さんはじめ保護司会の皆様、水谷先生講演会からの繋がりの「子ども劇場」の三上さん、巻島さん、同じく、PTA連合会の木下春夫さん、等々多くの方々が、継続的に当会に繋がってくださることは心強く、心より感謝です。

◎楽しいだけでは良いものは作れないと、子どもの幼稚園のバザー活動から学びました。もちろん楽しいことは大切ですが、意見を出し合っただけの衝突も大切な部分になります。多くの異なった考え方・感じ方を大切に、これからはしながわチャイルドラインが継続していかれるといいと実感できるそんな場面にも何回か遭遇し、力強さを感じました。

最後に、心を込めてこの事業を進めてくださった皆さまに心から感謝いたします。これからも、みんなで力を合わせ子どもを支援していく活動を続けていきますので、今後ともに、ご支援、よろしくお願ひします。

●村瀬幸浩先生公開講座「子どもの性の今」～特に男の子に焦点を当てて～

2015.10.22

性の話を村瀬先生ははっきりとそして真剣にお話ししてくださったので、恥ずかしいという感情を持たず、むしろ興味を持ってお話を聞くことができました。チャイルドラインには、性に関する電話がとでもたくさんかかってきます。性について学び、子どもたちにも正しい知識を伝えられるように勉強していきたいと感じました。(Ka・Ho)



●杉山春さん公開講座「虐待事件から見えてきたもの」

～SOSはなぜ届かなかったか～

2015.11.12

「うまく育ててもらえなかった自分かわりに自分の子どもで“育て直し”をするのではないか。」これは大阪市西区で2010年に起きた「大阪二児置き去り死事件」の母親を追った杉山さんの言葉です。

虐待はなぜ起きてしまうのでしょうか？

杉山さんは、社会のシステムと女の性、そして、子どもと親の関係、に向き合い、文章にしてきた方です。

良い母親でいなければならない。その思いが虐待につながってしまうのではないかと、お話を聞いて思いました。

今回の講座では、愛知県武豊町でおきた三歳児餓死事件(2000年)もとりあげられました。

どちらも、虐待の一因に貧困の問題があります。そして、どちらも社会の支援体制の手が届かなかった悲しい事件です。私達はなにができるのか、それを考えさせられました。

「虐待をしている親」というのは「責めるべき存在」では決してありません。ただ、「親も子も支援が必要な家庭である」ということなのです。親からネグレクトを受けている子どもたちの姿は社会から見えにくい。それはなぜなのでしょう。

幼いころに大人に寄り添ってもらえなかった子どもは、自身で生きる方法を考えます。長じて、自分の力でなんとかする、という方法しか身に着けられなくなる。これが、命に関わるほどの困難な体験をしても、社会にSOSをだす力を持ってない、つまり、社会(=大人)への不信感があるのです。これは大人社会への痛烈な問いかけです。とても胸に響きました。

世界は信じられると、どのように若い人たちに伝えていけるか。

子どもたち、若い人、女性たち、困難を語る言葉に耳を傾けているかが問われるのではないのでしょうか。

杉山さんは最後にご自分の家庭のお話と共に、家の問題を家の中だけで解決するのは非常に困難なことであり、外部からの力に頼ることが大切なのは、と仰っていました。

外部の力として、チャイルドラインがさまざまな気持ちを語る子どもたちの話を聴き、寄り添い、生長の一助になっていけば…と強く思いました。(Yo・Ki)

こんにちは！しなチャイ13期のKaHoです。

私がしながわチャイルドラインのメンバーになってからもう一年が経ちました。

先輩方にはいつも楽しく一緒に活動をさせてもらってほんとうに、この活動を始めてよかったなあと感じています。

実は、私は小学生の時に子供向けの電話相談に電話をかけたことがあります。家族のことで悩みがあって、友達には言いにくくて電話をかけました。でも実際かけて、ほんとに人が出て驚いて切ってしまいました。なので、子ども達が電話をかけて黙ってしまったり、切ってしまう気持ちが少し分かる気がします。

顔の知らない人に自分のこと、悩んでいることを話すってすごく勇気のいることだと思います。

受け手をやろうと思ったのも実際にかけてみたけど、どんな人が話を聴いてるんだろう？

どんなところでやってるんだろう？という好奇心と、心理学部で勉強を始めて人の話を聴くことって私にできるかな？と感じたからです。

約一年間活動をしてみて、いろいろな子どもと出会い、メンバーの皆さんと出会い、素晴らしい先生方とも出会い…
振り返れば人と人との縁が円のように繋がり、その繋がりが広がっていく

「縁は円」みたいだなと感じた一年でした。

来年も繋がりを広げ、楽しく活動したいと思っています。

来年も宜しく願います(*´ω`*)

~~~~★ 受け手研修会に参加して、思ったこと・感じたこと ・学んだこと ★~~~~

1. チャイルドラインの受け手養成の研修で印象に残っているのはどんなことですか？
①傾聴の大切さ、むつかしさ ②「遊びには自分を育てる力がある」遊びの重要性 ③ロールプレイ
④性の話（目からうろこ） ⑤子どもの権利の話 ⑥虐待の話 ⑦スタッフの温かい対応
2. 研修を通して感じたことは？
・毎週木曜日夜の研修会が楽しみだった ・子どもの話を聴くことの難しさを実感した ・濃い時間だった
・いろんな方と出会って、自分が変化している ・傾聴とは何か自分なりにわかった気がする
3. ロールプレイはいかがでしたか？
・「素の自分でいい」と聴いて楽になった ・聴くこと、話すこと、とても難しかった、自分を変えたいと思った
・学びを生かしているいろんなことに挑戦していきたい・顔が見えない分、想像力を働かせて聴く必要を感じた
・聴くことの大切さは「自分が満足することではなく、相手が満たされること」と肝に銘じ活かしたい

●「電話対応のスキルアップのために」～チャイルドライン合同研修会より

2015・4

◎電話の4つのチャンネル

- ・「聴く」 ・「理解を伝える」共感的理解 ・「教える」共感理解 ・「出会いを楽しむ」癒しと相互依存
～～支援活動は自分が満足するのではなく、相手にどう役に立ったか、その検討が重要～～

◎『支援力を考える』

1. 理解力

- 人への理解力を深める…相手が感じている事、考えていること、寂しさ、甘え、不安感等がわかる
- 人の性格や常識(価値観)はどのようにしてつくられるか？傷つく・癒される・成長するには…どんな人間関係が影響するかを知る

2. 受容力…人にやさしくなり、嫌いな人が少なくなる

- 自分と違う価値観を受け入れ、相手との適度な距離を保てる
- 温かい心を持ち、共感的な理解を相手に伝えることができる
「優しい人」と「優しくない人」の違いはどこから来るのでしょうか？
～ 優しさ、思いやりは生まれつきのものではありません。優しい人を見て、こどもが無意識にまねをし、やさしい気持ちも言動も学ぶものです。優しいモデルに多く接したかどうかは、その人の「受容力」に大きな影響を与えます～

【参加しての感想】

- ・チャイルドラインの子どもへの向合い方が、ただ聴くだけということの上に、もう1歩進んで、解決に向けての援助も必要があれば行っていく。今までも、必要な知識は伝え、共に考えていくようにしてきているので、違和感なく聴くことができた。押しつけでない、助言は、子どもの次のステップに役立ち、具体的な動きに繋がると思った。 (Ya・To) ↓
「誰のためにやっている活動なのか？」の問かけに「自分のためでもあり、子どものためでもある」と、再確認した。
- ・受け手研修を受講して、1年が経過し、「なんとなくこんな感じ」とわかりかけてきた様に思っていたが、
今日の話聴きあまりに奥が深すぎて、スタートラインから後ろに戻ってしまったようです。今回「自分が何もわかっていないことがわかった」という研修でした。これからもう1度、マイナスから学んでいきたいと思えます。 (No・Ka)
- ・経験、知識は大切ではあるが、時にはそれが判断の邪魔になるときもある。真摯な仲間と共に活動していきたい。
- ・役立つかどうかは、社会的な責任を果たしているか否かと考えていきたい。 (Yo・Ya) (Mi・Ka) ↑

☆～★～☆～「しながわチャイルドライン」の新しいホームページご覧ください!～★～☆～★



18才までの子どもがかけられる電話

☎ 0120-99-7777

電話代はかかりません。
携帯もOKです。



月曜日から土曜日 16時～21時

栃木県・埼玉県・東京都・山梨県・愛知県は日曜日もつながります

☆しながわチャイルドラインの小冊子作成
好評です 1部100円で購入出来ます★



●しながわチャイルドライン電話概要 (Sidara & Kaneko 作成)

(2015・4～9月) *【2014・4～10月】

総受信数=2001件	【2016件】
発語あり=984件	【1052件】
内、子どもからの電話=843件	【941件】
携帯から=849件【473件】	・固定電話=149件【238件】
	不明=199件【230件】
男子=65%【60%】	・女子=30%【29%】

◎ご支援ありがとうございます◎

(順不同・敬称は省略させていただきました)

本道秀雄/岡崎和代/須貝行宏/高橋敦子/金子みゆき/松澤利行/松澤颯子/遠藤芙美子/高野陽一/井上耕一/中川治子/石津橋本政徳/大塚悦子/沖山弘隆/元村英一/米川宏一/北島浩之/北島まりあ/酒井暢子/平間早苗/入江杏/藤山/植松真理/村田稲塚由美子/野澤澄也/瓜生アツ子/松江和晃/浅川ハマ江/木下徹/徳江安子/浅川周二/猪俣庸子/宇佐川瑠子/保科うた子
昭和会館/東京都共同募金会/(株)東京正武堂/東京Ⅲゾントクラブイオン株式会社/北条正子
ナーア・フ・オ・ブ ナルクラブ 生徒会

- 平成27年も様々な課題を残し終わろうとしています。子どもたちの問題も様々で多様化し見えにくくなっています。しながわチャイルドラインは多くの方の支えによりもうすぐ15周年を迎えます。2013年は「夜回り先生水谷修氏講演会」昨年は「隣の人上映会」今夏は「副島賢和先生講演会」を開催し、たくさんの方々と子どもたちの問題を共有してきました。
 - 来年度15周年記念事業として「ドキュメンタリー映画『風のかたち』上映&小児科医細谷亮太先生と伊勢真一監督の対談」を予定しています。15周年記念事業の実行委員会も動き出し、只今、実行委員を募っています。みんなの力で創りあげていきましょう。
 - 2016年に向けて全国のチャイルドラインは刷新し前進します。オンラインの取り組みの講習会・トライアル実施。子どもの声を社会に発信するための記録の充実等、新たな風が吹いています。
- ◎しながわチャイルドラインも新しい会員を迎えいっそう充実します。電話をかけてきた「子どもたちが、満たされる」ように、研修で学びを深め、仲間との信頼関係を基に力を合わせて活動を進めていきましょう。(しながわチャイルドライン副代表 北島仍子)

☆当面の課題は事務所探しです。お心当たりがありましたらご紹介ください★



チャイルドラインとは?

チャイルドラインは、18歳までの子どもが、悩んでいることや誰かに聴いてもらいたいことなど、どんなことでも話すことのできる電話で、全国各地に72のチャイルドラインがあります。子どもたちの声に耳を傾ける、ひとときの心の居場所です。

しながわチャイルドラインの歩み

しながわチャイルドラインは15年前に活動を始め、11年前から毎週金曜日に常設開設するようになりました。毎週80本以上の電話がかかってきて、子どもの話しに真剣に耳を傾けていますが、取りきれない電話も少なくなく・・・

電話の増設が必要です。皆さん、のご支援、ご協力よろしくお願いします。
開設 毎週金曜日 午後4時～9時 0120-99-7777
毎週水曜日 午後7時～9時半 0120-99-7777

しなチャイメールアドレス
sinagawachildline
@hotmail.com